

東三河の力 100

私たちが暮らす東三河が豊かで住みやすい地域であるために
経済・教育・福祉などさまざまな分野で支えている力があります。
このコーナーではそうした企業や施設を紹介します。

「やさしい心」を医療のなかに 豊橋ハートセンター

ハートをひとつに、心臓も心も健康に。医療法人澄心会豊橋ハートセンター(豊橋市大山町字五分取21ノ1、鈴木孝彦理事長・院長)は、「すべての患者に優しく温まる医療を提供する」ことをモットーに、24時間救命救急体制の心臓病専門病院として、医療を行っている。1999(平成11)年5月6日に開院して以来、5年余で患者登録(カルテ)は2万7000人(今年2月末)。患者サイドに立った最先端医療の実践は広く支持されており、同院ではさらに新しい医療を進め、地域社会に貢献していくことを目指している。

豊橋ハートセンターは、豊橋市の南西、豊橋駅から約5分のところにあり、すぐ横を国道23号線バイパスが走っている。

病院は当初、3階建てだったが、2001年(平成13)年に新しく増設したスペースを合わせ現在は4階建て、総床面積は7077平方メートル。

- ① 24時間救命救急体制の循環器疾患専門病院・豊橋ハートセンター(豊橋市大山町)
- ② ドイツ・シーメンス社製の心臓専用CT(世界2号機)

1階は外来部門のほか、検査、管理部門。外来部門には救急室、検査部門は各種血液・尿検査室、心電図、心エコー(超音波検査)、トレッドミル(運動負荷試験)。

原点は開院の19床

レントゲン、マルチスライス64CTがあり、管理は事務部門と物品管理室、カフェテリア、ハートホールなど。
2階は手術室、カテーテル室(4室)と日帰りカテーテル検査専用リラクゼーションルーム、安静室、医局、図書室、会議室で、安静室には16床のベッドがあり、透析も可能。3階と4階は病棟。病床数は68床、CCU8床。各病棟には説明室も設置されている。

開設当初は19床でスタートし、翌年30床に増床、01年10月から現在の68床になった。開院時、循環器内科と心臓血管外科の診療科目で、病床数19床は心もとなかったが、カテーテル検査の外来化(日帰り)、PCI(経皮的冠動脈形成術)の1泊2日化、低侵襲冠動脈バイパス手術の導入により、入院期間の短縮が図れると判断し、開院に踏み切った。鈴木院長は「19床の病床数でできる最良で、しかも経済的な診療を模索した結果が、いまのハートセンターの礎となった」と話していた。

医師は循環器科17人、心臓血管外科5人の計22人。年間診療実績は、心臓カテーテル(冠動脈造影)検査3000例、風船カテー



◇鈴木孝彦院長プロフィール
1947(昭和22)年、豊橋市羽田町生まれ。73(同48)年、岐阜大学医学部卒業。国立療養所豊橋東病棟副院長から99年、豊橋ハートセンター開設。日本心臓血管インターベンション学会理事、CCT世話人、心臓病学会評議員など。

テルなどの治療(PTCA)1000例。また、心臓血管外科は250例で、このうち150例が心臓バイパス手術。
カテーテル治療では、昨年10月から薬剤をめぐって、再狭窄(きょうさく)を防ぐステントを使用している。さらに同月、ドイツ・シーメンス社製の世界2号機「心臓専用CT64」を導入した(ちなみに1号機はシーメンス本社にある)。11秒で約350枚の心臓写真が撮れるため、患者の負担が少なく、より正確に症状を把握することが可能となった。
最先端医療のためには、最新鋭機器の導入は不可欠であり、これに加えて同院では研究所を開設し、医療レベルの向上を図っている。

技術、情報を積極的に公開

医療スタッフと設備を整え「患者の立場に立った医療を行うこと」がハートセンターの目標である。

活動

地域に開かれた豊橋ハートセンターの主な活動
【ハートミニライブ】カテーテル室4室と手術室にはテレビカメラが常設され、いつでも同院の手術光景をライブでハートホールに映し出せるようにしている。ホールには現場のカメラやカテーテル室の画像を遠隔コントロールできるシステムがあり、大型2画面の映像で見ることが出来る。ライブは1、2カ月に1回、テーマを決めて開かれ多くの医師による熱い討論が行われている。ライブモニターは、若年循環器医・心臓血



人工心肺を使わずバイパス手術(右側は大川副院長)

【病院概要】

診療科目：循環器科、心臓血管外科、内科
院長：鈴木孝彦(循環器科) 副院長：大川育秀(心臓血管外科)
受付時間：平日午前8時30分～正午、午後4時～6時 土曜日午前8時30分～正午
休診日：土曜日午後、日曜日、祝日、年末年始。職員数：115人



豊橋ハートセンターへのアクセス